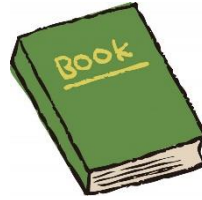


図書館だより

本で世界を広げよう!



令和6年2月
大洲農業高校図書館

【図書委員おすすめの本の紹介】

《余命3000文字》作者：村崎羯諦

出版社：小学館

「大変申し上げにくいのですが、あなたの余命はあと3000文字きっかりです」ある日、医者から文字数で余命を宣告された男に待ち受ける数奇な運命とは――?

【おすすめポイント】

設定が凝っていて面白い。

《恋とそれとあと全部》作者：住野よる

出版社：文藝春秋

片思い男子とちょっと気にしすぎな女子。二人は友達だけど、違う生き物。夏の特別な四日間。

【おすすめポイント】

主人公たちが恋している様子が伝わってくる場面が多く、恋心との掛け合いが好きだから。

《雨の降る日は学校に行かない》

作者：相沢沙呼

出版社：集英社

「先生。わたしたち、どうして学校に行かないといけないの?」コンプレックスのない女の子なんて、いない。中学生の憂鬱とかすかな希望を描き出す、切ない連作短編集。

【おすすめポイント】

明確な理由がなくとも学校に行きづらい人もいる。自分を押し殺して苦んでいる人たちに読んでもらいたい。

《メイドインアビス》 作者：つくしあきひと

出版社：竹書房

人類最後の秘境と呼ばれる、未だ底知れぬ巨大な縦穴「アビス」。その大穴の縁に作られた街には、アビスの探検を担う「探窟家」たちが暮らしていた。彼らは命がけの危険と引き換えに、日々の糧や超常の「遺物」、そして未知へのロマンを求め、今日も奈落に挑み続けている。

【おすすめポイント】

独特な世界観が広がる。健気に自分の目標を追いかけているのが共感できる。

《あの花が咲く丘で君とまた出会えたら》

作者：汐見 夏衛

出版社：スターツ出版文庫

女子中学生の加納百合は、学校や親、周囲に対して苛立ちを隠せずにいる。ある日の夕方に母親と口論になり、制服のまま家を飛び出してしまう、誰とも会わない場所と考えて裏山の防空壕跡で一夜を過ごす。翌朝目覚めて外を見るといつもの見慣れた街や学校もなく景色が全く違っていた。

【おすすめポイント】

戦争の辛さや特攻隊という決死の任務を行う部隊について知れるから。

《余命10年》 作者：小坂流加

出版社：文芸社

20歳の茉莉は、数万人に一人という不治の病にかかり、余命が10年であることを知る。笑顔でいなければ周りが追いつめられる。何かをはじめても志半ばで諦めなくてはならない…。

【おすすめポイント】

人と人との関わりや人を愛し愛されることの大切さ、温かさ、命の尊さを知ることができる。